

# トータルケアNEWS

4 4 2 0 1 1 . 1 2 . 2 8

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会  
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5  
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701  
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>  
E-mail [chiiki@akitakenshakyō.or.jp](mailto:chiiki@akitakenshakyō.or.jp)

## CONTENTS

1. 「結いっこサービス」..... 1 ~ 3
2. 「トータルケアサポ - ト  
委員会への支援」 ..... 3 ~ 4

このNEWSは、市町村社会福祉協議会と協働で取り組む、地域福祉トータルケア推進事業及び各市町村社協が取り組んでいる重点的な事業や地域福祉活動の特徴などをお知らせしています。

## 1. 「結いっこサ - ビス」

### 大仙市社会福祉協議会における地域福祉トータルケア推進事業の取り組みについて

大仙市社会福祉協議会では、地域福祉トータルケア推進事業に取り組むとともに、平成21年度から「安心生活創造事業」(厚生労働省補助事業：大仙市委託事業)に取り組み、その中から低料金の生活介護支援事業「結いっこサ - ビス」をスタートさせた。大曲地区、西仙北地区でのモデル事業実践を経て、平成23年度からは全市で取り組んでいる。

平成21年度から取り組み始めた「結いっこサ - ビス」は、小地域ネットワーク活動によってこれまで積み重ねられてきた住民との信頼関係や協力関係が基盤になっている。近隣や小地域での福祉活動の限界が顕在化してきている今日、「相談のできる便利屋さんがいればいい」という切実な声や、「関係機関等の情報交換や日常的連携のシステムがあればいい」といった声を背景に生まれたものである。

また、そのきっかけは、小地域ネットワーク活動や地域の福祉のアンテナ役である福祉員活動、要援護世帯の福祉調査、地区民協や福祉座談会、福祉事務所・地域包括支援センターなどに寄せられた地域の課題(例えば、近隣のネットワーク協力員の高齢化、買い物代行など日常生活上の支援が必要な世帯の増加、物忘れなど不安を抱える世帯の増加、自分から助けを求めない・求めることができない人の存在など)や、社協に寄せられる住民ニーズ(孤独感、日常生活上のちょっとした困りごとなど)であった。

「結いっこサービス」の利用にあたっては、相談に対して職員がアセスメントからプラン作成に専門性を発揮し、サポ - タ - がサービス提供から報告までを責任をもって実践することが大きな特徴である。また、サポ - タ - の報告・情報を通じて対象者の変化に気づき、関係機関や諸サ - ビスの利用へ新たなつながりが生まれるなど、切れ目のない支援を目指すものとして成果を上げてきている。

この事業は、大仙市社会福祉協議会での地域福祉実践の一つであるが、地域で暮らす住民の生活福祉課題の解決に向けてワンストップで対応できる総合相談、地域福祉活動への多様な参加、住み慣れた地域での自立生活を支えあう力を支援するコミュニティソーシャルワークという、地域福祉トータルケアの趣旨の実践と言える。

### 「結いっこサ - ビス」の特徴

地域の支え合いを基本に、介護保険制度などの現行の制度やサ - ビスでは対応できない

福祉ニ - ズに対する支援を行う新たな住民参加型福祉サ - ビスである。

支援や手伝いを必要としている人を定期訪問、相談から社会資源・サ - ビスにつなぐ日常生活上に立ち入ることへの遠慮や気兼ねを解消することを狙って低料金制を導入社会福祉協議会で養成した「生活・介護支援サポーター」が訪問し、支援を行う。

### 対象者

訪問介護などの公的なサービスを受けるほどではないが、ちょっとした支援があれば自立した生活をおくることができる方

### 目 標

「見守り」と「買い物支援」を通じて一人暮らしでも安心の基盤づくり

「見守り」が目指すもの...

- 早期発見(安否確認、変化の察知)
- 早期対応、対処
- 犯罪被害等を予防する危機管理
- 生活に必要な情報提供や助言(情報支援)
- 孤独感の低減や安心感を与える不安解消

「買い物支援」の内容

買い物に行きやすくする...移動の手助け、品物を運ぶ  
出かなくても買い物ができるようにする...宅配の活用

サ - ビスの内容

契約訪問(有料)1時間当たり100円

対象者:一人暮らし等で定期的な訪問を必要とする方

内 容:身体状況・生活変化の察知・安否確認・生活相談

巡回訪問(無料)月1回

対象者:契約訪問を希望しないが、一人暮らし世帯等で定期的な訪問が必要と判断される方

内 容:1回10分~20分程度で、身体状況の変化や生活の変化の確認、安否確認等



### 生活・介護支援サポ - タ - の養成

サービスの利用者に対して見守りや買い物支援を行う「生活・介護支援サポーター」養成を開始(平成21年度:35名、平成22年度:38名)

生活・介護支援サポーターの役割と義務

- ・活動は社協が作成する「結いプラン」に基づいて実践し、活動記録票、活動報告書を提出
- ・利用会員等の個人情報に関する守秘義務(個人情報保護)
- ・活動中の事故が発生した場合の迅速な対処手順の徹底(リスクマネジメント)
- ・政党や宗教の勧誘、物品の斡旋・販売等、この事業に支障となる行為をしてはならない

### サ - ビスの手順

- 1 職員による事前訪問...結いプランの作成
- 2 生活・介護支援サポーターと担当職員との打合せ
- 3 生活・介護支援サポーターによる利用者宅訪問活動
- 4 報告・記録...記録票、報告書の記録・提出、担当職員との話し合い、必要に応じて関係者連絡会を開催。

### 所 感

大仙市社会福祉協議会の考え方、また「結いっこサービス」をはじめとする様々な実践には一貫した大きな柱がある。一つには、地域に焦点を当て、住民一人一人の声に丁寧に耳を傾け、個別ニ - ズから地域ニ - ズの発掘や、地域住民とともに課題・ニ - ズの解決に

向けた組織づくりや住民とともに活動に取り組む、「コミュニティオーガニゼーション（地域組織化）」であった。

またもう一つは、住民が主体的に活動に取り組むことは、社会の調整力を底上げする力そのものであり、地域の新たな支え合い（共助）の体制・仕組みづくりは、市民総参加で行うべきであると考えていることである。

大仙市社会福祉協議会は、全国に先駆けて秋田県社会福祉協議会が県内市町村社会福祉協議会とともに進めてきた「小地域ネットワーク活動」に、合併以前から非常に力を注いできた地域である。他にも、地域支え合い活動や配食サービス、除雪ボランティア等、多くの市民・企業等が多様な活動に参加することによって支えられてきたとのことである。

今回の取材では、小地域ネットワーク活動でその手腕を発揮された社協活動の大先輩が「コミュニティオーガニゼーションこそが、社協活動の真髄である」と熱く語ってくれたことが印象的であった。熱き情熱をもった先輩に取材することができたことへ感謝するとともに、先輩の実践が脈々と受け継がれている大仙市社会福祉協議会の今後の地域福祉活動実践に期待したい。

取材者：秋田県社会福祉協議会地域福祉部 佐藤一弘

## 2. ト - タルケアサポ - ト委員会への支援について

### 森山地区サポ - ト委員会設立の経緯と支援内容について

五城目町は、高齢化率36.15%（平成22年9月末日現在）の秋田県では3指に入る高齢化の進んでいる町です。

本会では、少子・高齢化の急速な進行、核家族化や一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯の増加などにより、福祉に対するニーズが増大かつ多様化する中で、社協では「住民が住み慣れた地域でいかに安全で安心して暮らしていけるか」という課題に取り組む事業を展開してきました。

その中、秋田県社会福祉協議会が平成17年度より全県的に取り組みました「地域福祉ト - タルケア推進事業」に、我が社協も県社協のご指導を受けながら平成18年度から取り組みを進めてきた。

わが町は、昭和30年に旧7町村が合併してできた町です。現在でも旧町村単位の7地区でそれぞれの公民館活動などを積極的に行っている町でもあります。この地域福祉ト - タルケア推進事業を実施するにあたり、地域住民が福祉をどのように考え、対応して行くべきかを自分自身の問題と捉え、住民が協力し合える体制づくりを、地区毎に組織づくりを行う必要がある

と考えました。しかし、全町にわたって同時に組織を立ち上げることは困難なため、一地区だけ先行して組織を立ち上げ、それをモデルに各地区に波及させたいと考えました。

モデル地区の選定にあたり、7地区の公民館活動はもとより老人クラブ活動や各種団体の活動が活発な地区を候補として取り上げ、検討し森山地区に決定しました。

地区を選定した後は、公民館長をはじめ、町内会長、各種団体の代表などと協議を重ねながらサポ - ト委員会を立ち上げることにしました。

サポ - ト委員会設立後は、県社協の指導を受けながら研修会や講習会、地域座談会などを開催し、地域住民に共通認識を持ってもらうよう努めてきました。その結果、今では住民自らが積極的にサポ - ト委員会に関与し、自主的な運営を行うようになりました。



町内会長・民生委員の他、保育園園長、大工、婦人会、生涯学習奨励員等、多数の住民が参画

## 取り組みによって現れた地域の変化、成果や課題

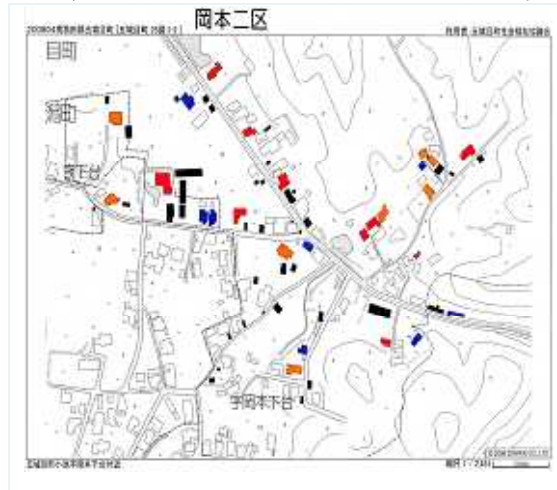
町内会をはじめ各種団体はそれぞれ積極的な活動は行っていますが、それは個々の活動でありました。また、社協から委嘱されている福祉員自身も福祉員としての役割や内容についてあまり理解をしていないところもありました。

サポ - ト委員会設立後、各種研修や講習を開催することにより、それぞれの役割を認識し、連携を図りながら福祉について真剣に取り組み、地域の課題について話し合おうとする姿勢が見られるようになりました。

この森山地区は4町内会で構成されており、それぞれの町内会ごとに福祉マップを作製したところ、2町内会では高齢化率40%に達している状況が確認できました。また、社会環境の変化もあり、この地区においても近隣住民同士の交流が年々希薄になっていることも現実問題として浮かび上がってきました。

福祉マップの作製を通し、地域の福祉課題を明らかにし、サポ - ト委員をはじめ地域住民がいかに理解し、この課題に積極的に取り組んでいけるかが大きな課題です。

また、活動を通じてサポ - ト委員会では結果より過程を重視し、背伸びしない、あせらない、出来ることから地に足をつけ一步一步事業を進めようとしています。



## 成果を踏まえた今後の地域福祉活動への取り組み方針

わが町の地域福祉ト - タルケア推進事業のモデル地区として取り組んでいただいた、この森山地区のサポ - ト委員会が、地域に住む独り暮らし高齢者等が地域の支え合いで安心して暮らせる仕組みづくりを自主的に構築していただきたいと思います。

安心づくり、福祉を支える人づくり、みんなの生きがい・喜びづくり、福祉による地域活性化に取り組むことで、社協が住民に見える形で地域に関わり、地域課題の解決を図るため、この森山地区の取り組みを各地区のサポ - ト委員会の参考として、また各地区の特色を生かした組織づくりや地域で支え合う仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

寄稿者：五城目町社会福祉協議会 北嶋 由宏 氏

## 編集後記

3月11日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にはお見舞いを申し上げます。一にも早い、日常生活への復帰が叶うことを願うばかりです。

また、被災地住民への支援、被災地復興支援に奮闘された関係者の皆様の尽力に敬意を表します。

今回の掲載記事は大震災発生前に取材及び寄稿を依頼していたものです。御協力いただきました佐藤晴子様(大仙市社会福祉協議会 前事務局次長)、五城目町社会福祉協議会 北嶋由宏様には、発行が大変遅れましたことを紙面を借りてお詫び申し上げますとともに、大変お忙しい中、御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

今後も、各市町村社会福祉協議会における地域福祉実践やCSW(コミュニティソーシャルワーカー)の活躍ぶりを御紹介して行きたいと思っております。